

郷土を語り

人々の輪が広がる

東京奈良県人会レター

編集発行所：一般社団法人 東京奈良県人会 発行人：榎本 俊洋（2019年春号）

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 奈良県東京事務所内 電話 03-5210-2838 HP: <http://tkynarakenjinkai.jimdo.com/>

TOKYO NARA HUMAN NETWORK NEWS NO. 45

●● 新年賀詞交歓会 ●●

平成最後の新年を祝う賀詞交歓会が平成31年1月16日（水）の午後6時半から東京都港区のシェラトン都ホテル東京で開かれた。会員やその家族ら約80人が出席し新年のあいさつを交わした。

榎本会長は冒頭「去年は会員が300人を超えた。若手も増えて盛り上がってきた。今年もよろしくお願ひします」とあいさつ。続いて奈良県東京事務所の浅田輝男所長の発声で乾杯し開会した。

途中、ラグビーの全国大学選手権決勝で惜敗した天理大学の永尾教昭学長と、小松節夫ラグビー部監督が準優勝を報告。永尾学長は「来年は生駒山を越えて優勝トロフィーを持ち帰りたい」と頂点への思い熱く語った。

また奈良県中和地域を舞台にしたファンタジー映画「かぞくわり」を撮影した塩崎祥平監督（大和郡山市出身）があいさつ。1月19日から東京「有楽町スバル座」と奈良県橿原市のイオンモール橿原内の「T O H O シネマズ橿原」で公開される同作品のPRを行った。

会場では奈良の地酒や柿の葉すしなどが振る舞われたほか、豪華景品が当たる抽選会が行われ、おおいに盛り上がった。参加者は古里への思いや互いの近況を語り合った。

最後に奈良新聞社東京支社の齋田勉支社長が中締めし、閉会した。



新年の挨拶に立つ榎本会長



準優勝の報告をする天理大学の永尾学長と小松監督

●● 映画『かぞくわり』鑑賞会 ●●

大和郡山市出身の映画監督塩崎祥平さんの最新作「かぞくわり」を応援する鑑賞会が平成31年1月19日（土）、東京都千代田区の映画館「有楽町スバル座」で行われた。会員約30人が参加した。

この映画は、奈良県中和地域のニュータウンを舞台にしたある家族の物語。二上山に眠る大津皇子と當麻寺（葛城市）の曼荼羅を作った中将姫の伝説を描いた作家・折口信夫の小説「死者の書」をモチーフとし現代の家族が抱える抱える課題を壮大なファンタジーを織り交ぜて表現した作品。東京で活動していた塩崎監督は広陵町に移住し約1年半にわたり構想、撮影を行なった。

上映前に出演した俳優らが舞台あいさつに立ち、主人公の母親役を演じた女優竹下景子さんは「奈良の空気がスタッフの気持ちを一つにした」と話し、主人公の姪役の女優木下彩音さんは「奈良は心が自由になる。出演者が奈良の地でまとまった」などと撮影時のエピソードを披露した。

塩崎監督は「奈良は、過去、現在、未来の時間を感じさせる不思議なところ。先祖を大切に作る土地柄が家族を語るにふさわしい場所だ」とあいさつした。

鑑賞した奈良市出身で都内在住の会社員橋本真季さんは「映画を観ている間はまるで奈良に帰省しているかのような感覚を味わえた。映像から奈良の匂いや独特の夏の暑さが伝わってきた」と感想を話した。



映画「かぞくわり」鑑賞会に参加した県人会員ら

●● 若手の会 第27回例会「奈良とくすり」 ●●

薬の発祥地といわれる奈良の薬について勉強する例会が平成31年2月22日(金)午後7時から東京都中央区の奈良まほろば館で開かれた。奈良県薬事研究センター(御所市)の大住優子統括主任研究員が奈良の薬の歴史や種類、同センターの取り組みなどを講演した。約40人が参加した。

大住さんは薬の区分や奈良との関わり、歴史などをスライドを使って解説。「日本書紀」や「万葉集」、「風土記」にある薬に関する記述や、現存する日本最古の私立植物園「森野旧薬園」(宇陀市)、「置き薬」として全国を行商した大和売薬など奈良と薬の関わりを紹介した。また、奈良県内に大手製薬企業数社の発祥地があることを披露した。

大住さんは「あまり知られていない奈良と薬の関係を多くの人に知ってもらいたい」と話した。

講演後、吉野地方で栽培される生薬「大和トウキ」を使った薬膳スープが振舞われ、参加者は「身体が温まる」と言いながら故郷の味を楽しんだ。



奈良と薬について語る大住研究員

●● 奈良まほろば館からのお知らせ ●●

奈良県人会の皆様には、平素から奈良まほろば館の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。当館は今年で開館10周年を迎えることができました。これもひとえに東京奈良県人会をはじめ関係者の皆様や奈良ファンの皆様のお力添えのお陰です。今年度は、年間を通じ、10周年記念企画としてイベントや講座・講演会を実施し、奈良の魅力発信に努めて参りますが、6月以降上半期の主なイベントは次のとおりです。皆さまのご来館をお待ち申し上げます。

6月

■新元号「令和」改元記念万葉集展示 5月28(火)～6月9日(日)

新元号「令和」に引用された『万葉集』巻5梅花32首の中から選んだ歌をモチーフに描いた奈良県立万葉文化館所蔵の「万葉日本画」や大亦観風『万葉集画撰』『太宰府梅花宴の歌』などゆかりの日本画や、「令和」の典拠となった『万葉集』や大伴旅人などの関連資料を紹介するパネル展を開催します。また、「令和」にちなんだ商品も販売します。

6月2日(日)と6月9日(日)には記念講演を開催。2日は「元号『令和』と『万葉集』梅花歌卅二首并序」と題し鶴見大学副学長の新沢典子氏、9日は「日本の元号と私年号」と題し奈良県立万葉文化館研究顧問・名誉研究員で早稲田大学エクステンションセンター講師の松尾光氏による講演会を行います。

■金魚すくい体験 6月1日(土)

大和郡山市で毎年開催されている「全国金魚すくい選手権大会」。今年は金魚すくいの国際化を目指し、「Goldfish Scooping World Championship」として8月に開催されます。この大会のPRイベントとして、奈良まほろば館で金魚すくい体験を開催します。「金魚のまち大和郡山」の元気な金魚たちを相手に金魚すくいをぜひ体験してください。

■第4回「咲良史歌鹿(葛和紙)」・「The Pair」展示販売会 6月11日(火)～16日(日)

葛の根の繊維から作った葛和紙繊維製品のブランド「咲良史歌鹿(さくらしかじか)」と、全国一の靴下の産地である奈良のフラッグシップブランド「The Pair」の2つのブランドの展示販売会と紹介パネル展示を行います。

■YOSHINOのCHA-CHA-CHA～奈良吉野のかくれ里「大淀町」のお茶まつり！

6月18日(火)～6月30日(日)

吉野の玄関口、大淀町は江戸時代から伝わるお茶の産地。大淀町のお茶に関する展示を行います。

6月29日(土)と30日(日)には「濃旨煎茶」の入れ方実演と試飲を開催。また30日(日)には「天日干し番茶」を使った「茶がゆ」作り体験を実施。大和地方のお茶文化と大淀町の伝統的なお茶の製法についても学べます。

7月

■黒滝村のおもてなし～ねえのごつつお～ 7月2日(火)～7月16日(火)

森林(もり)の村で生きる「ねえ」たちが作った黒滝村の特産品を紹介し、山里の暮らしや黒滝人(くろたきびと)の魅力を伝えるパネル展示。黒滝村で採れた野菜も販売。

■ヤマト地域の魅力紹介展示 7月18日(木)～7月28日(日)

日本最古の王権誕生の地「大和」。日本最古の道「山の辺の道」や、日本最古の歴史書や歌集の舞台となったこの地域の魅力を伝えるパネル展を開催。7月27日(土)、28日(日)には文化財担当者等による講演・ワークショップも開催します。

■平城京天平祭展示 7月30日(火)～8月8日(木)

毎年春、夏、秋に平城宮跡で開催される平城京天平祭を紹介するパネル展示を行います。

8月

■聖徳太子と斑鳩の宮展(仮題) 8月10日(土)～8月20日(火)

2021年に御遠忌1400年を迎える聖徳太子の業績と、斑鳩の秋の見所を紹介するパネル展を開催します。講演会、物販も実施予定。

■薬師寺東塔展 8月22日(木)～9月5日(木)

2009年から全面解体修理に着手し2020年4月に落慶法要が予定されている薬師寺東塔についての企画展を開催します。

9月

■JR東海キャンペーン展示 9月7日(土)～9月17日(火)

今年秋のJR東海「うましうるわし奈良」キャンペーンをパネルや映像で紹介します。

■今に残る南朝の遺構と文化展 9月19日(木)～9月26日(木)

吉野町に今も残る南朝の遺構と文化についてパネル展を開催。南朝についての連続講座も開催します。

連続講座：6月22日(土)、7月20日(土)、8月31日(土)、9月22日(日)

■吉野展 9月28日(土)～10月6日(日)

紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録されて15周年になるのを記念したパネル展を開催。連続講座(全6回)も開催します。

【ショップのイチ押し】

■「奈良ギフト」販売中

せんとくんのボックスに奈良の魅力を詰め合わせた「奈良ギフト」を販売中です。4,000円セットと6,000円セットの二種類(ともに送料・税込)あり、共に一部商品を選択できます。

4,000円セット

蚊帳ふきん(白雪ふきん)、本葛ぜんざい(黒川本家)、高山かきもち「ころもち」(高山製菓)、きざみ奈良漬(森奈良漬店)、本葛入りうどん(三輪山勝)および次の3点から1つ選択(日本酒「春鹿 豊麗」720ml(今西清兵衛商店)、完熟梅酒「七福神梅酒」720ml(八木酒造)、葛湯「代々の友7種セット」(森野)

6,000円セット

蚊帳ふきん(白雪ふきん)、本葛ぜんざい(黒川本家)、高山かきもち「ころもち・エビスラダ味」(高山製菓)、瓜の奈良漬(いせ弥)、柿バター(石井物産)、柿くず餅「琥珀」(石井物産)、本葛入りうどん(三輪山勝)および次の3点から1つ選択(日本酒「春鹿 豊麗」720ml(今西清兵衛商店)、完熟梅酒「七福神梅酒」720ml(八木酒造)、葛湯「代々の友7種セット」(森野)

■夏季限定「柿氷」の販売

全国2位の出荷量を誇る奈良の柿で作った柿ピューレと葛餅をトッピングした「柿氷」を今年も土・日・祝日の夏季限定で販売します(1杯500円)。お立ち寄りの際にぜひご賞味下さい。



●●ごあいさつ●●

4月1日の人事異動で、奈良県東京事務所の副所長として参りました河合と申します。主に国の各省庁との連絡調整を担当させていただきます。国と奈良県とのパイプ役として微力ながら励んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



奈良県東京事務所
副所長 河合正都

4月1日付けで、奈良県東京事務所副所長として奈良まほろば館に着任しました藤本と申します。奈良の優れた魅力を首都圏の皆様積極的に情報発信してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



奈良県東京事務所
副所長 藤本和巖

●●今後の予定●●

●令和元年度総会・懇親会のご案内

来る6月15日(土)水月ホテル鷗外荘(東京・上野)にて、令和元年度総会を12時より開催いたします。会場の詳細や出欠のご回答などは同封しましたご案内を参照ください。またご欠席の方はハガキにて委任状をご提出くださいますようお願い申し上げます。

会費納入のお願い 新年度の年会費のお支払いにつきましては、

[振込先]

ゆうちょ銀行 郵便局用振替用紙(口座番号等:00170-2-323480)
※他金融機関からの振込の場合は〇一九(ゼロイチキュウ)店 (当)0323480
南都銀行 東京支店(普)2002626
一般社団法人東京奈良県人会

[年会費]

一般会員:3千円
参与会員:1万円
賛助会員:1口2万円×2口以上